私の本棚

総員　玉砕せよ！



幼かった頃、近所のおにいちゃんが見せてくれた「墓場の鬼太郎」は怖かった。貸し本時代だったのだと思う。今は、「ゲゲゲの鬼太郎」となり、登場人物（妖怪）たちは可愛くなっているが、ねずみ男はなかなかに得難いキャラだ。

さて、本書は水木しげる氏の書下ろし長編戦記まんがである。水木さん自身の戦争体験をもとにしていて、あとがきの冒頭には、「この『総員玉砕せよ！』という物語は、九十パーセントは事実です。」とある。とはいえ、自身は負傷してその場に居合わせておらず後日に同輩から聞いた話もあるにはある。だが、しかし。「総員玉砕」命令のあほらしさが減るものではない。

水木氏の描く登場人物たちはシンプルな線。そう思って頁をめくると急にタッチが変わり、細かく書き込まれたモノクロ写真のような画が飛び込んでくる。シンプルな漫画と実写のような画面とを見ているうちに、この戦争はなんだったんだ？ という思いが強くなる。

玉砕の生き残りは軍の精神統一に邪魔だから「生き残りは殺さなくてはならない」という上層部のおぞましい判断。ほんまかいな、とは思わなかった。というのも昔、映画「ゆきゆきて神軍」（1987年公開、YouTubeで閲覧可）を観ていたので「さも、ありなん」だった。

文庫本になっているので、いつでも入手できる。ぜひ、一読を。（さ）

水木しげる／講談社文庫／定価780円（税別）